

2017

Feminist counseling
For women support

フェミニストカウンセリング

専

門

講

座

5日間
全10回2017
11/1[水]-12/20[水]

10:30~13:00 / 14:00~16:30

※11月1日はオリエンテーション(10:00~10:30)があります。

女性の自立とエンパワメントのための心理的援助を行うために必要な知識と技術を学ぶ専門講座を開催します。当講座はドーン財団の主催により、1996年から実施している人材育成プログラムです。

フェミニストカウンセリング全般についての理解を深めるとともに、女性の置かれている状況やそこに起因する心理的問題について考えます。各テーマの専門家による講義から、ジェンダーに敏感な視点がなければ適切に対応できないDVや性暴力、虐待サバイバーへのサポートのあり方を理解するとともに、今、社会の中で重要で必要なテーマである「セクシュアリティ」「ひとり親家庭」等の現状と支援の課題について学びます。

講義形式で進めます。全10回中8回以上受講された方には、修了証書を発行します。

対 象

女性を対象とした相談事業や
メンタルヘルスに関する事業に
関わっている人

カウンセリングの基礎知識があり、
フェミニズムの視点に立った女性への
心理的援助に関心がある人



ドーン財団

会 場 ドーンセンター セミナー室2(5F)
(大阪府立男女共同参画・青少年センター)
大阪府大阪市中央区大手前1-3-49

定 員 40 名

受講料 30,000円 (各回5,000円、当財団賛助会員は10%割引)
※一旦お支払いされた受講料は返金できませんのでご了承ください。

主催 ドーン財団(一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団)

2017 Feminist counseling For women support フェミニストカウンセリング

専門講座

11/1 10:00-10:30 オリエンテーション

11/1 [水]

第1回

10:30-13:00

なぜ「フェミニストカウンセリング」が必要か

フェミニストカウンセリングがなぜ必要か、その基本的な考え方を理解し、支援の姿勢とスキルを学ぶ。

講師：川喜田好恵

(日本フェミニストカウンセラー協会代表、ドーン財団カウンセラー)

第2回

14:00-16:30

多様な性～心理・社会的課題と支援～

セクシュアリティ、性の多様性について理解するとともに、心理的課題とそれを取り巻く社会的課題、支援者の役割を知る。

講師：執行照子

(NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会代表理事、NPO法人フェミニストカウンセリング神戸理事)

11/15 [水]

第3回

10:30-13:00

ひとり親家庭の現状と支援の課題

女性の就労についての現状と課題、女性の貧困・子どもの貧困、とりわけ母子家庭の実態を理解し、それぞれの支援に活かす。

講師：神原文子

(神戸学院大学現代社会学部教授)

第4回

14:00-16:30

法と司法に潜むジェンダー

法律は性暴力(性虐待を含む)被害者をどこまで支援できるか。法的支援の取組、判例を通して課題を知る。

講師：吉田容子

(市民共同法律事務所弁護士、立命館大学法科大学院教授)

考える

フェミニストカウンセリング全般に対する理解を深め、女性の置かれている状況やそこに起因する心理的問題について考える。

11/29 [水]

第5回

10:30-13:00

DV被害者の心理と心のケア

DV被害の実態と被害者の心理、心身への影響、子どもに与える影響等を知り、有効な心のケア等の方法について学ぶ。

講師：竹之下雅代

(ウィメンズカウンセリング京都フェミニストカウンセラー、ドーン財団カウンセラー)

第6回

14:00-16:30

女性の心とからだ

～リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点から～

医療現場から見てきた、女性のライフサイクルと心とからだの変化、影響について学ぶ。

講師：高田昌代

(神戸市看護大学教授、助産師)

知る

今、社会の中で重要で必要なテーマの現状と課題を知る。

12/6 [水]

第7回

10:30-13:00

性暴力被害の実態と支援のあり方

性暴力被害の実態、実践に対応できるトータルな支援のあり方を学ぶ。

講師：福岡ともみ

(NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうこ理事兼事務局長)

第8回

14:00-16:30

グリーフケア
～喪失体験と女性の支援～

大切な人を失うなどの体験とそのグリーフ(悲嘆)のケアについて、ジェンダーの視点から学ぶ。

講師：米虫圭子

(京都産業大学学生相談室主任カウンセラー、臨床心理士)

学ぶ

DVや性暴力、虐待サバイバーへのサポートのあり方を学ぶ。

12/20 [水]

第9回

10:30-13:00

暴力サバイバーの支援のあり方と
フェミニストカウンセラーの役割

長年のトラウマカウンセリングの実践から、被害者の心理的回復に対してフェミニストカウンセラーが果たす役割を考える。

講師：井上摩耶子

(ウィメンズカウンセリング京都代表)

第10回

14:00-16:30

性暴力・DV被害者への医療

被害者へのトータルな支援のために、医療の現場では何ができるのか。「性暴力救援センター・大阪SACHICO」の取組に学ぶ。

講師：加藤治子

(NPO法人性暴力被害者支援センター・大阪SACHICO代表、阪南中央病院産婦人科医師)

12/20 16:30-17:00 修了式

8回以上受講された方には修了証書を発行します。

講師のご紹介

川喜田好恵

(かわきたよしえ)
日本フェミニストカウンセラー協会代表、ドーン財団カウンセラー

組織開発、人間関係トレーニングなどに関わった後、米国の大学院でカウンセリングなどを学ぶ。帰国後、1981年より大阪府立婦人会館カウンセラーなどを経て、1994年ドーンセンター(当時の大阪府立女性総合センター)設立当初から2009年3月まで、相談担当コーディネーターを務める。日本DV防止・情報センター運営委員などを兼務。大学でジェンダー論などの講座を持つ。

執行照子

(しぎょうてこ)
NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会代表理事、NPO法人フェミニストカウンセリング神戸理事、日本フェミニストカウンセリング学会認定フェミニストカウンセラー

1998年に数名の仲間と「フェミニストカウンセリング神戸」を立ち上げ、2005年度まで代表を務める。2006年「NPO法人フェミニストカウンセリング神戸」設立後は、理事として活動。「フェミニストカウンセリング研究」(日本フェミニストカウンセリング学会「フェミニストカウンセリング」編集委員会 編)に数多くの執筆を行っている。

神原文子

(かんばらふみこ)
神戸学院大学現代社会学部教授、博士(社会科学)

京都大学大学院社会学専攻博士後期課程単位取得退学。専門は、家族社会学、教育社会学、人権問題。生活者の視点から、結婚の意味、夫と妻の関係、親子関係、離婚とひとり親家族などについて調査研究をしてきた。近年は、マイノリティのひとり親家族の複合差別と社会的排除について、被差別部落のひとり親調査、日韓のひとり親家族の比較研究、しつけと体罰などについて調査研究をしている。著書に「子づれシングルと子どもたちひとり親家族で育つ子どもたちの生活実態」(2014年、明石書店)、「子づれシングルとひとり親家族の自立と社会的支援」(2010年、明石書店)、「よくわかる現代家族 第2版」(2016年、ミネルヴァ書房)、「教育と家族の不平等問題-被差別部落の内外-」(2000年、恒星社厚生閣)など

吉田容子

(よしだようこ)
弁護士(市民共同法律事務所)、立命館大学法科大学院教授
日弁連両性の平等に関する委員会委員

主要著書に「人身取引-防止の観点から」(ジェンダー法学会編)、「講座ジェンダーと法 第3巻 暴力からの解放」(2012年、日本加除出版)、「日本における性犯罪の被害実情と処罰に関わる問題」(日本刑法学会)、「刑法雑誌」54巻1号(2014年、有斐閣)、「弁護士へのジェンダー教育」(浅倉むつ子責任編集)、「ジェンダー法研究創刊第1号」(2014年、信山社)など。

竹之下雅代

(たけのしたまさよ)
ウィメンズカウンセリング京都フェミニストカウンセラー、ドーン財団カウンセラー

女性や子どものための心理的支援を志し、1995年ウィメンズカウンセリング京都設立時より現職。男女共同参画センター・DV相談支援センター、保健所等で、特に暴力被害母子へのエンパワメントのためのカウンセリング、グループワーク、子育て支援に関わっている。DVや性暴力被害者のため、裁判における代弁擁護活動も行っている。DV家庭で育った子どもたちがピアグループによって子ども時代のケアをする重要性を講演等で伝えている。

高田昌代

(たかだまさよ)
神戸市看護大学教授、助産師

女性の健康、妊産婦の助産ケアを行う助産師として病院や地域で活動後、助産師教育、看護師教育に従事。思春期ピアカウンセリング研究会でピアカウンセラー養成者として中学校・高校において活動するほか、不妊や不育症、高齢出産、人工妊娠中絶、月経困難症など、月経・出産を取り巻く現状に対して、自分のからだを知る、大切にすることの相談・啓発活動などを行っている。

福岡ともみ

(ふくおかともみ)
NPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうこ理事兼事務局長

1999年からDV被害者や性暴力被害者のサポートに関わる。2013年 兵庫県で初めての「性暴力被害者支援センター・神戸」の設立に参画。現在は名称を変更し「NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうこ」、日本フェミニストカウンセリング学会認定フェミニストカウンセリング・アドボカシー、京都女子大大学院非常勤講師。共著などに「家族支援論 一人ひとりと家族のために」(2005年、得津慎子編著、相川書房)、「笑顔をとり戻した女たち マイノリティ女性たちのDV被害-在日外国人・部落・障害-」(2007年、社団法人東京自治研究センター・DV研究会編、バ・ウィメンズ・オブ・イス)、「フェミニストカウンセリングの実践」(2010年、井上摩耶子編著、世界思想社)、「家族写真めぐる私たちの歴史」(2016年、ミネルヴァ、御茶の水書房)

米虫圭子

(こむしけいこ)
京都産業大学学生相談室主任カウンセラー、臨床心理士

アメリカの大学院にて臨床心理学を修了し、2年間ホスピスでグリーフカウンセラーとして遺族ケアに携わる。2001年に帰国後、ホスピス・緩和ケア施設などで遺族のサポートグループファシリテーターとして活動。また、遺族ケアに関わる医療者や援助者を対象にグリーフとそのケアについての講演や講義をしている。2006年より現職。

加藤治子

(かとうはこ)
NPO法人性暴力救援センター・大阪SACHICO代表、阪南中央病院産婦人科医師

1975年から阪南中央病院(大阪府松原市)に産婦人科医として勤務。早くから「女性の一生を生活背景も含めて診る」という方針を目指す。診療現場でDVやレイプ被害者に接する中で、性暴力は女性の心とからだを深く傷つけ、人間としての尊厳を奪う。人権問題であり、医療問題であると認識するようになった。女性への暴力にも取り組める女性外来として、04年から「はるウィメンズクリニック」を開院。09年6月、「女性の安全と医療支援ネット」準備室を、産婦人科医師・精神科医師・法医学者・弁護士・カウンセラー・ウィメンズセンター大阪などの草の根の女性活動家達と立ち上げた。ネットワークの拠点として、2010年4月阪南中央病院内に「性暴力救援センター・大阪SACHICO」を開院、代表を務める。

受講申込書または申込書の①～⑧を記載したものを、メールまたはFAX、郵送にてご送付ください。 ※受講申込書は当財団ホームページからダウンロードできます。

①受講を希望する回に○を付けてください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
全回	1	2	3	4	5	6	7	8	9

②氏 名	フリガナ		③年代	
④所 属	勤務先、現在所属している団体・グループなど			
⑤連絡先	☐ 勤務先・所属団体 ☐ ご自宅 ☐ その他()			
	住 所			
	TEL		FAX	
	E-mail			
⑥受講決定通知方法	☐ F A X ☐ E - mail			

⑦相談業務等の経歴（ボランティア活動を含む）

⑧受講動機、学びたいと思っていることなど

この申込書をもとに「受講者名簿」を作成し、配付してよろしいですか。

お名前：（はい・いいえ） 勤務先：（はい・いいえ） 所属団体・グループ等（はい・いいえ）

ここに記載された個人情報は厳重に管理し、本講座の運営に関してのみ使用します。

お申込み・問合せ先



ドーン財団（一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団）

〒540-0008

大阪市中央区大手前1丁目2番15号 大手前センタービル12F

TEL 06-6910-8615 FAX 06-6910-8624

E-mail jigyo@dawn-ogef.jp

URL <http://www.dawn-ogef.jp>

財団がドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）を拠点に活動してきたことにちなむ愛称。ドーンセンターとともに、ドーンと進んでいこう、という思いを込め、設立20周年を記念して平成26(2014)年度に決めました。ドーンセンターは、平成6(1994)年の開館時に大阪府の公募によって選ばれた愛称で、「夜明け」や「物事の始り」を意味する英語DAWNと、大阪の女性たちの「ドーンと行こう」という心意気を表しています。



女性を対象とした相談やメンタルヘルス支援に携わる方を対象としたグループ・スーパービジョンを開催します。経験豊富なスーパーバイザーとともに具体的な対応や経験・知識の共有を行うことで、援助職の資質と専門性の向上を図ります。全3回です。

2017年11月10日・17日・24日 午後 スーパーバイザー 川喜田好恵



・京阪「天満橋」駅、地下鉄谷町線「天満橋」駅1番出入口から東へ約350m
・JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m